

関西SASユーザー会

-SASの便利な使い方について-

SAS Institute Japan Ltd.
Solution Planning Center

東一成(Kazunari Azuma) Kazunari.Azuma@sas.com

The Power to Know..



The Power to Know.

今回のユーザー会の内容

- 履歴データを用いた顧客ランクの算出
 - 顧客の簡単な履歴データを用いて、一般的に流通業などで使われている簡単な分析の例を紹介
 - 「デシル分析」
 - 「RFM分析」
 - ◆ 上記の分析をSASでどのように行うのかを紹介する。



デシル分析(decile)とは?

- ◆ 顧客毎に売上金額などを集計し、10に分ける 手法。DECILEとは英語で10分位の意味。
- これにより顧客に10段階のランク付けを行い、 ランク別に売上が多い製品を求めたり、本当に 「2:8」の法則が当てはまっているかを確認した りする事が可能。
- 各ランクの顧客の貢献度などを測る。金額だけの単純な手法であるが、簡単に算出が可能。

3



The Power to Know.

今回のサンプルデータ



- 今回は先のようなデータを利用した。
 - 顧客番号(CUST ID)
 - 買上日(DATE)
 - 商品区分(SYOUHIN)
 - 金額(PRICE)
- 上記の変数で50万件の データを利用してデシル 分析を行っていく。



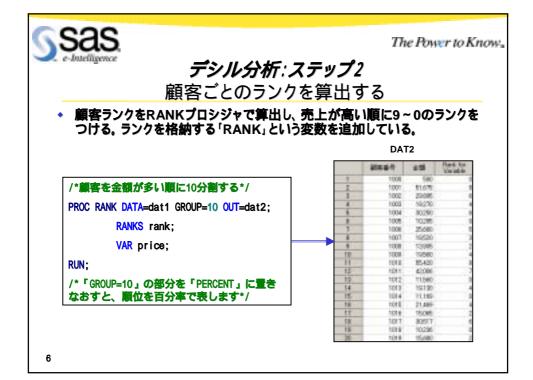


5

*デシル分析:ステップ*1 データをサマリーする

◆ 顧客ごとの売上ランクを出すために顧客ごと売上高SUMMARYプロシジャで算出する。









デシル分析:ステップ3

ランク別に売上金額の統計量を算出する

/*RANK每の売上金額の統計量算出*/
PROC MEANS DATA=dat2 N SUM MEAN MAX MIN MAXDEC=2;
CLASS rank;
VAR price;
RUN;

ariable price	オブザーベション数	合計	平均值	最大值	最小值
0	1741	18590563.10	10678.09	11591.00	350.00
1	1742	21892418.30	12567.40	13573.50	11592.00
2	1742	25542256.90	14662.60	15840.00	13574.00
3	1742	30007182.70	17225.71	18740.00	15845.00
4	1742	35528189.50	20395.06	22253.50	18746.00
5	1742	42638689.50	24476.86	26948.00	22255.10
6	1742	52335108.80	30043.12	33620.10	26950.00
7	1742	67711786.90	38870.14	45104.00	33639.00
8	1742	97642285.30	56051.83	71670.00	45110.00
9	1742	295833554.60	169824.08	6278049.30	71676.00

Sas

7

8

The Power to Know,

デシル分析:ステップ4-1

『2:8』の法則をグラフで確認する

データ加工

/*RANK別で売上金額を集計し、高い順にソートする*/ PROC SUMMARY DATA=dat2 NWAY; CLASS rank; VAR price; OUTPUT OUT=dat3(DROP=_FREQ_ _TYPE_)
SUM=price; RUN: PROC SORT DATA=dat3; BY DESCENDING price; RUN: QUIT: /*ランク別の売上金額を累計する*/ DATA dat4; SET dat3; RETAIN: id=_n_; amount+price; FORMAT amount 12.0; RUN;

ランク別の売上集計と売上累計

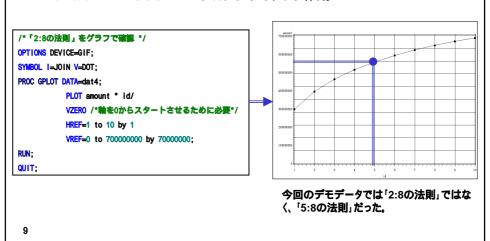
	Finel for Non-chir price	支類	14.	weat
1.1	1000	200820005	1	295810355
2	100	97942295		200475840
3	7.	67711797	1	ASS NOTICE!
4	- 6	50336189	4	913522796
5	6.	42920690	5	958161 K25
6.	4	08100190	. 6	Sphillsteins
7	3	30807163	T.	621 996797
- 1	2	25842257		647239884
- 0	1.	21900000	+	669101475
30.	0	10590560	10	607722036

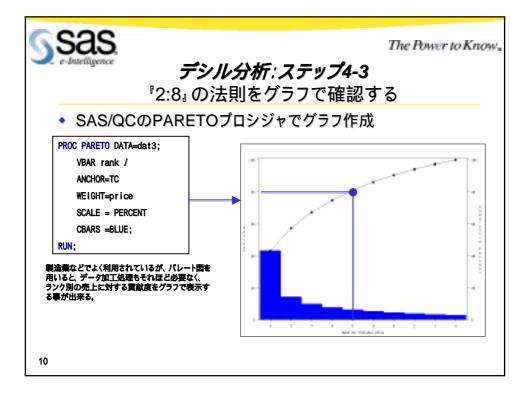


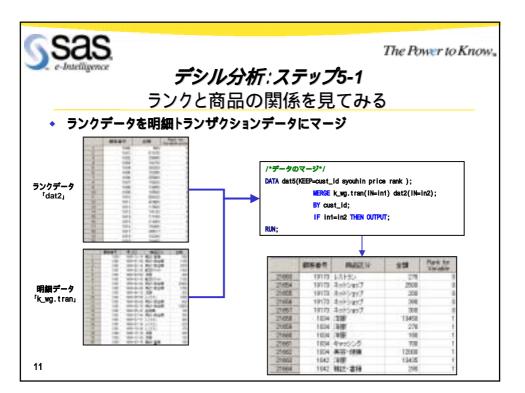


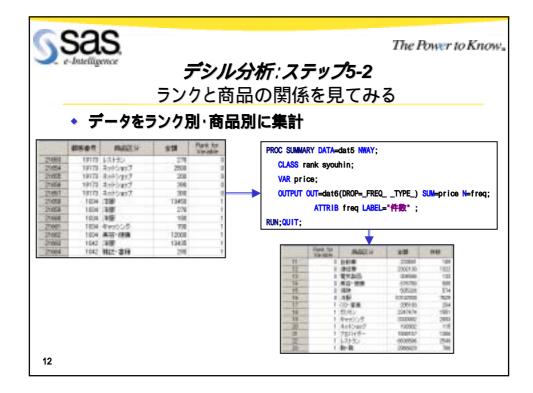
デシル分析: ステップ4-2 『2:8』の法則をグラフで確認する

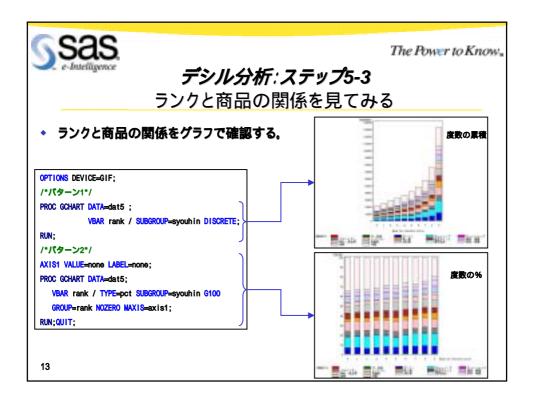
◆ SAS/GRAPHのGCHARTプロシジャでグラフ作成

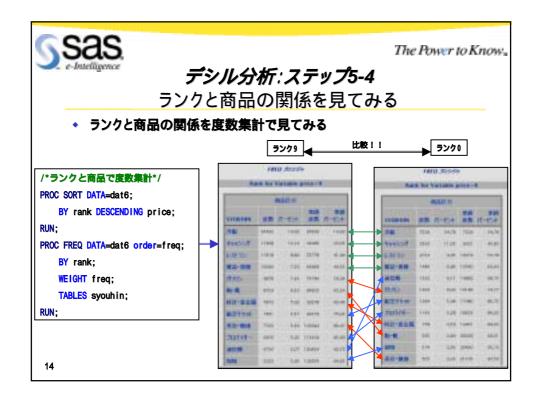












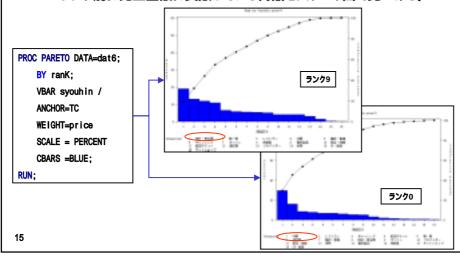
The Power to Know.



デシル分析:ステップ5-5

ランクと商品の関係を見てみる

ランク別に売上金額に貢献している商品をパレート図で見つける。





The Power to Know,

デシル分析:まとめ

- 今回は、SASデータステップやSASプロシジャを利用して顧客を10分割し、各グループがどの程度売上に貢献しているかを分かるようにした。
- この場合、トップの2~3グループに対する依存度が高いが、このような「2:8の法則」はパレート原理とも呼ばれている。
- 顧客の属性データ等を利用すれば、各グループの特徴を知ることが可能になる。
- 今回は品質管理のソフトウェアであるSAS/QCに含まれる PARETOプロシジャを利用したが、製造業における品質管 理だけではなく、営業活動やマーケティング活動の管理を行う事もできる。



RFM分析とは?

- ◆ RFMによる顧客ランキング
 - 流通業やサービス業などで良〈利用される分析手法。
 - 優良顧客を定義するために履歴データの以下の指標を利用する
 - ◆R(Recency)···最終利用日
 - ◆ F(Frequency)···頻度
 - ◆ M(Monetary)···利用金額
 - 上記の指標に対して、各企業で定めた指数を掛けて、ポイントを算出する
 - EX.2週間前に購入は5ポイント、10回~20回は10ポイント 、購入金額が10万円を超えると10ポイント。5ポイント+10 ポイント+10ポイント=25ポイント
 - このようなRFMを使う事により、金額だけではなく他の指標を用いて、顧客の分類を行える点でデシル分析より柔軟でもある。

17



The Power to Know,

RFM分析を工夫する

◆ RFM分析は一般に広く知られている

- Recency **直近の購買年月日** 2000/9/1

- Frequency 購買回数

- Monetary 購買金額

20回 10万円



分析者が重み付け!!

優良顧客は誰?

◆ 顧客ランク = \ Rm/R* F/Fm * M/Mm

あるターゲットの日から「何日前」にと考える



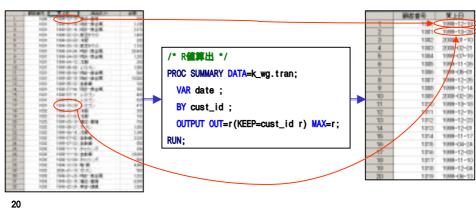


今回のサンプルデータ



- 今回は先のようなデータを利用した。
 - 顧客番号(CUST ID)
 - 買上日(DATE)
 - 商品区分(SYOUHIN)
 - 金額(PRICE)
- ◆ 上記の変数で50万件の データを利用してRFM分 析を行っていく。





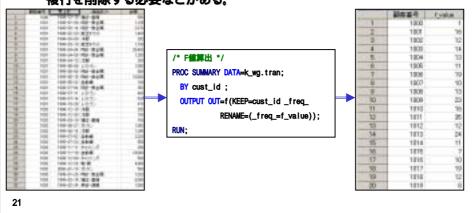




RFM分析:ステップ2

「F」の算出

履歴データから、「F」値を算出する。今回は出現頻度をそのまま利用しているが、本来であれば同一日であれば何回買い物をしても1回とみなした方が良いと思われる。その場合はSORTプロシジャ等を利用して重複行を削除する必要などがある。



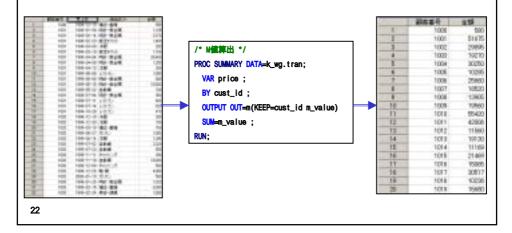


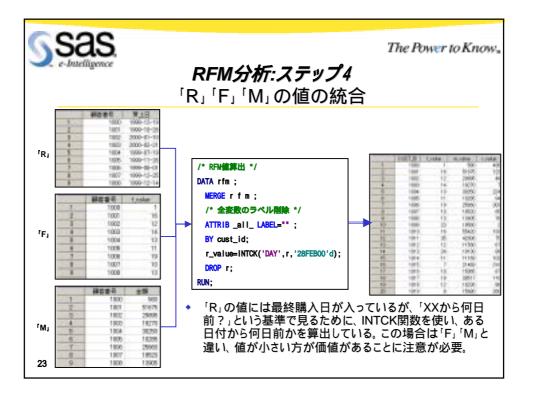
The Power to Know,

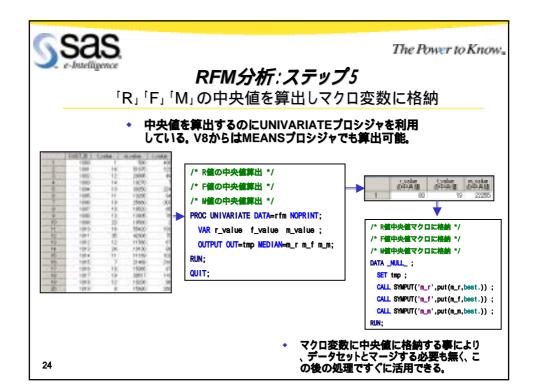
RFM分析:ステップ3

「M」の算出

履歴データから「M」値を算出する。顧客別に利用金額を集計している。本来であれば「一定期間内」「6ヶ月以内」等の制限がつくと思われる。





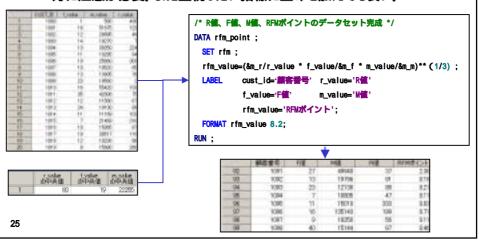




RFM分析:ステップ6

「R」「F」「M」の値より顧客ランクを算出

 最終的に算出する顧客ランクは大きい値の方が良いので、「R」の使い 方に注意が必要、また重視したい指標に重みを加えても良い。





26

The Power to Know.

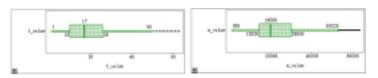
RFM分析:ステップ7

「R」「F」「M」の値に主観的な指標をつける

 SASのフォーマットの機能を利用して、「F」と「M」に 対して、ランク付けを行う。

```
/*良く行われるランク付け*/
PROC FORMAT;
VALUE f_rank LOW-10='F_RANK1' 11-18='F_RANK2' 19-30='F_RANK3' 31-60='F_RANK4' 61-HIGH='F_RANK5';
VALUE m_rank LOW-14487='M_RANK1' 14488-21637='M_RANK2' 21638-36260='M_RANK3' 36261-68905='M_RANK4' 68905-HIGH='M_RANK5';
RUN;
QUIT;
```

ポイントの切り口は、下記のような分布のグラフを書いて決定していく事も考えられる





RFM分析:ステップ8-1

フォーマットを利用して「F」「M」のランクの分布を見る

/*ランク付けのクロス集計表*/
PROC FREQ DATA=rfm_point;
FORMAT f_value f_rank. m_value m_rank.;
TABLES f_value * m_value;
RUN;quit;

 当然のことながら、「f_rank5」 「m_rank5」の組み合わせの 人が最も良い顧客と想定できる。

B Court Code s. code(B)									
	1894 1939 8135 4176	1946 212 2419 2419	761 4,09 17.62 18.30	386 225 936 1936	111	2939			
F	1646 833 8375 8427	1906 5-46 90-29 30-79	967 5-00 30-11 20-47	- 607 - 510 - 610 - 11.61	140 140 147 100	479 34-8			
F.MARY	017 449 1939 1825	1108 637 3773 3637	1081 7 08 89 64 29 16	171 171 171 171	111 111 116 117	20 (H			
*.	1 10 1 10 1 21 4 24	400 2.14 94.69 11.17	79/05 5 84 24 93	100 130 31-0 31-0	950 5.17 34.60 34.00	0166 36.27			
F.SAME	30 319 145 830	600 608 278	246 116 1249 430	110 210 210 1111	317 431 41 61 41 77	A11			
100	400	400	12 H	2364 fe 87	7641 10.37	199.00			
		288	BORNES OF						

27



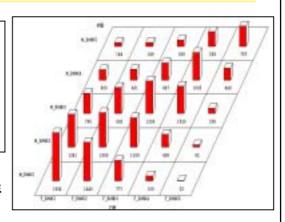
The Power to Know.

RFM分析:ステップ8-2

フォーマットを利用して「F」「M」のランクの分布を見る

OPTIONS DEVICE=GIF;
PROC gchart DATA=rfm_point;
where m_value ne .;
BLOCK f_value/DISCRETE
GROUP=m_value
COUTLINE=BLACK;
FORMAT f_value f_rank. m_value m_rank.;
RUN;
QUIT;

「F」「M」の各ランクをグラフで表現している。他にも「R」や年齢などの属性と組み合わせることにより、色々な事が分かってくると思われる。





RFM分析まとめ

- RFM分析自体は過去から使われてきているので、 手法自体は最新のものではない。
- ただ、今回のサンプルデータのように「顧客ID」「日付」「商品」「値段」程度の情報からでも、何とかして顧客をセグメントするための値として活用する事が出来る。
- 種歴データとは今回のようなPOSデータだけではなく、Webログ関連のようなデータでも、SASデータセットに取り込めれば活用が可能。

29



The Power to Know,



<u>本日の資料・サンプルプログラム・サンプルデータ(小さく縮小してあります)は</u> 以下のURLから取得できます。(曜日の昼くらいから閲覧可能)

http://www.sas.com/japan/usergroups/wg/archive/index.html

31